

I. はじめに

我が国の代表的な学習英文法書と言える英文法解説（江川泰一郎 著）によれば、理由・原因を表す接続詞 *as, because, since* について、これらの中で、*because* が最も頻繁に使われ、普通、主節の後ろに置かれるとしている。一方、*as, since* の導く節は文頭にくることが多いと述べられている。¹⁾ これは Michael Swan の次の説明と符合するものと言える。

Because is generally used when the reason is the most important part of the sentence. Therefore, the *because*-clause usually comes at the end.

.....
As and *since* are used when the reason is already well known, or is less important than the rest of the sentence. . . . *As*- and *since*-clauses often begin the sentence.²⁾

情報構造の観点からこれらの説明を捕らえなおすなら、*because* は直接的な因果関係を表す従属節を作るが故に焦点のあたる主節の後に置かれるのに対して、*as, since* によって導かれる従属節は間接的な因果関係（つまり前提）を表すために文頭にくることが多いと解釈できる。

接続詞 *for* については、Swan は次のように解説している。

For suggests that the reason is given as an afterthought: a *for*-clause could almost be in brackets. *For*-clauses never come at the beginning of the sentence.³⁾

A. J. Thomson & A. V. Martinet は、*for* の用法について更に詳しい見解を示している。彼等によれば、*for* は *because* より次の点で用法が制限されていると言うのである。

1. A *for*-clause cannot precede the verb which it explains:

Because it was wet he took a taxi. (For is not possible.)

2. A *for*-clause cannot be preceded by *not, but* or any conjunction:

He stole, not because he wanted the money but because he liked stealing. (for not possible)

3. A *for*-clause cannot be used in answer to a question:

Why did you do it? -- I did it because I was angry. (for not possible)

4. A *for*-clause cannot be a mere repetition of what has been already stated, but always includes some new piece of information:

He spoke in French. She was angry because he had spoken in French. (For is not possible.)

for にこのような制限があるのは、*for*-clause はある行為がなされた理由を述べるので

はなく、その説明の手助けとなる付加的な情報を伝えるだけだからだと説明している。speech では、for-clause の前にポーズが置かれる。書き言葉では通常コンマが置かれるが、独立構文を作ることが時々あると述べている。⁴⁾

Quirk et al. は、because は adjunct 及び style disjunct の機能を果たすのに対して、as, since は content disjunct と style disjunct、for は style disjunct の機能を果たすものとして分類している。because は style disjunct つまり indirect cause を表す節を導く点では as, since, for と共通しているが、as, since 同様 direct cause を表す節を導きながら adjunct の機能を果たす点で as, since と区別される。その主な違いとして because は why 疑問文の答えにも分裂文の焦点の位置にも用いられるが、as, since は用いられない等が挙げられると言うのである。⁵⁾

本稿では、アメリカ英語の書き言葉の代表的なコーパスである "The Standard Corpus of Present-Day Edited American English"、通称ブラウンコーパスを用いて、上記の接続詞 as, because, for, since がどの位置でどのような頻度で用いられているのか、このコーパスのジャンル別に調査する。又、併せて文法家の記述の妥当性を検証する。

II. ブラウンコーパスによる頻度調査

ブラウンコーパスは、米国で 1961年に出版された15のジャンルを代表する各2000語の500サンプルからなる約100万語のコーパスである。大きく分けて 情報散文 (Informative Prose) と 創作散文 (Imaginative Prose) からなり、情報散文は更に9つのジャンル、創作散文は6つのジャンルに分けられる。ブラウンコーパスの構成内容については表1に示されている。入手したブラウンコーパスは、文法標識の付いていない text format I と呼ばれているものである。調査するにあたって、先ずコーパスから今回の調査対象である接続詞を含む用例を検索せねばならない。それには、パソコン用に開発された文章解析ソフトである Micro-OCP を用いた。機械が選び出してきた膨大な用例の中から理由・原因を表すもののみを選び分ける作業は、筆者の判断に基づき手作業で行なった。

調査では、ブラウンコーパスの15のジャンル別に as, because, for, since によって導かれた節が、主節の前 (initial)、後ろ (final)、文中 (medial) のどの位置に出現するかを見た。時には、独立した形で出現する場合がある。それらの例も含めて表にしたのが表2である。表2から独立構文を除き、それぞれの接続詞別に総計したものと、Quirk et al. が "The Lancaster-Oslo/Bergen Corpus of British English" (LOB Corpus) と "London-Lund Corpus of Spoken English" のそれぞれ10万語を対象に行なった調査結果⁷⁾ を一つの表にしたものが表3である。

<結果と考察>

表2と表3の結果を基に以下に考察する。

表2が示すように、because によって導かれた節は、文法家達によって既に述べられているように、どのジャンルにおいても圧倒的に主節の後ろに置かれるという結果となっている。一方、as の場合、通例主節の前に置かれるとされているが、殆どのジャンルにおいて主節の前より後ろに置かれる比率の方が高い。総じて、文頭にくる比率が他の位置より高いのは since だけであるが、後ろにもかなり出現していて、いくつかのジャンルでは前より後ろにより多く現われている。注目すべきは for である。他の接続詞とは比較に

表1 ブラウンコーパスの内容一覧

ファイル名	ジャンル	サンプル数	延べ語数
i) Informative Prose			
B1-CAT-A	Press: reportage	44	88824
B1-CAT-B	Press: editorial	27	54706
B1-CAT-C	Press: reviews	17	35424
B1-CAT-D	Religion	17	34637
B1-CAT-E	Skills, trades and hobbies	36	72799 (16818) ⁶⁾
B1-CAT-F	Popular lore	48	97335
B1-CAT-G	Belles lettres, biography, essays	75	152233
B1-CAT-H	Miscellaneous (government document, foundation reports, etc.)	30	62536
B1-CAT-J	Learned and scientific writings	80	162230 (126192)
ii) Imaginative Prose			
B1-CAT-K	General fiction	29	58426
B1-CAT-L	Mystery and detective fiction	24	48289
B1-CAT-M	Science fiction	6	12059
B1-CAT-N	Adventure and western fiction	29	58476
B1-CAT-P	Romance and love story	29	58733
B1-CAT-R	Humour	9	18291
Total		500	1014998 (922979)

表3 BROWN, LL, LOB コーパスの頻度表

	BROWN	LL	LOB
<i>as</i>	106(100%)	7(100%)	19(100%)
initial	28(26.4%)	2(28.6%)	9(47.4%)
medial	12(11.3%)	0(0%)	0(0%)
final	66(62.3%)	5(71.4%)	10(52.0%)
<i>because</i>	547(100%)	355(100%)	70(100%)
initial	57(10.4%)	4(1.1%)	8(11.4%)
medial	4(0.7%)	4(1.1%)	2(2.9%)
final	486(88.9%)	347(97.8%)	60(85.7%)
<i>for</i>	252(100%)		64(100%)
initial	1(0.4%)	0	0(0%)
medial	4(1.6%)	0	0(0%)
final	247(98.0%)	0	64(100%)
<i>since</i>	282(100%)	5(100%)	33(100%)
initial	147(52.1%)	2(40.0%)	12(36.4%)
medial	10(3.6%)	1(20.0%)	0(0%)
final	125(44.3%)	2(40.0%)	21(63.6%)

表2 ブラウンコーパスのジャンル別頻度表

ジャンル	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P	R	Total
<i>as</i>																
独立構文	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
initial	0	1	0	4	1	2	12	3	2	0	0	0	2	0	1	28
medial	1	0	1	0	0	2	6	1	1	0	0	0	0	0	0	12
final	8	7	4	2	5	6	8	3	13	1	1	2	0	2	4	66
Total	9	8	5	6	6	11	26	7	16	1	1	2	2	2	6	108
<i>because</i>																
独立構文	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	2	0	0	4	0	10
initial	3	3	2	5	2	5	12	3	7	1	3	1	3	7	0	57
medial	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
final	32	25	14	30	20	40	99	23	54	30	24	8	17	59	11	486
Total	36	28	17	37	22	46	112	26	61	32	29	9	21	70	11	557
<i>for</i>																
独立構文	1	6	2	15	1	8	26	8	16	6	3	1	7	5	2	107
initial	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
medial	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	4
final	2	13	6	18	2	27	62	3	35	19	9	5	18	20	8	247
Total	4	19	8	33	3	35	89	11	51	26	12	7	26	25	10	359
<i>since</i>																
独立構文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
initial	5	12	8	6	2	13	23	10	47	7	3	2	1	3	5	147
medial	0	0	0	0	0	2	3	1	1	1	0	0	0	2	0	10
final	10	5	1	4	3	12	21	4	48	4	1	2	2	5	3	125
Total	15	17	9	10	5	27	47	15	96	13	4	4	3	10	8	283

ならない程独立構文として頻繁に出現する。更に、Swan が指摘しているように、絶対く
ることではないとされている *for*-clause が文頭にくる例が1例ジャンル N の中に見いだ
される。次にその例を示す。

N11 1460^{B)}

It is also possible, but equally doubtful, that he actually shot down the
hundreds of men with which his legend credits him. For that legend was
growing explosively, Rumor was insisting he received a price of \$600 a man.

又、*because* によって導かれた節の場合、表2には出ていないが、主語(1例)や主格補
語(24例)の位置で用いられているものがある。このような例は、*as*, *for*, *since* には1

例も見いだせない。

E08 0100

But because science is based on mathematics doesn't mean that a hot rodder must necessarily be a mathematician.

G04 0160

Sometimes I guessed it was because the rain squall had changed direction.

次に情報散文(9ジャンル)と創作散文(6ジャンル)という2つの範疇にまとめて頻度を観察すると、情報散文の場合、*as*, *because*, *for*, *since* の相対的な比率は 1 : 4 : 2.7 : 2.6 であるが、創作散文の場合、1 : 12.3 : 7.5 : 3 で *because* と *for* の比率が極めて高いことがわかる。創作散文が共通して持つ文体的特性が *because* と *for* を好むと考えられる。情報散文の中でも科学的な読み物をサンプルとするジャンル J だけは、情報散文の他のジャンルとは異なり、*since* が一番頻度が高い。科学的読み物のジャンルでは、理由・原因の因果関係を強く表す *because* をできれば避けようとする意図が働いているように思える。

表3のLondon-Lundコーパスの頻度数で判るように、圧倒的に *because* が多い。これは、話し言葉では多義性の接続詞は曖昧さを引き起こすので避け、専ら *because* が選ばれると考えられる。同じ書き言葉を集めたブラウンコーパスとLOBコーパスの比較では、対象としたデータ量の違いを考慮に入れる必要があるが、英米差がはっきりと見られる。*because* の出現位置の比率はほぼ同じであるが、*as* の場合、ブラウンコーパスの方が主節の後ろに出現する頻度がずっと高い。又、*since* の場合、LOBコーパスは前より後ろで出現する比率の方が高いのに対して、ブラウンコーパスでは後ろより前で多く出現する。

以上、今回のブラウンコーパスのジャンル別の調査とLondon-Lundコーパス並びにLOBコーパスとの比較を通して、文法家の示す規範とは相容れない接続詞(*as*, *because*, *for*, *since*)の出現環境の実態ばかりか、英米差の存在を提示することが出来た。今後、LOBコーパス等の他のコーパスについてもジャンル別の調査を行ない、出現環境の実態をより明らかにしていきたいと考える。

Notes

- 1) 江川泰一郎(1991³)、『英文法解説』金子書房、pp. 386-387 参照。
- 2) Swan, M. (1980), *Practical English Usage* (Oxford University Press), p. 84 参照。
- 3) 同上、p. 84 参照。
- 4) Thomson, A. J. & Martinet, A. V. (1986⁴), *A Practical English Grammar* (Oxford University Press), pp. 31-32 参照。
- 5) Quirk, R. et al. (1985), *A Comprehensive Grammar of the English Language* (Longman), pp. 1103-1107 参照。
- 6) ファイル E と J は、ファイルにエラーがあり、圧縮されたデータを完全に元に戻すことが出来なかった。括弧内の数字は、元に戻すことが出来たデータの延べ語数である。
- 7) Quirk, R. et al. (1985), p. 1107 参照。
- 8) データの各行には、先頭にコードが付されている。前からジャンル名、ファイル番号、行番号を表す。